



今年度就職活動をした先輩からのメッセージ

〔2022年度 就職活動に関するアンケート〕から

理工学部

面接は双方向の会話のキャッチボールです。それを円滑に自然に行うことが合格の秘訣であると考えています。また、キャリアセンターでは個別相談やOB訪問など多くの支援をして頂きました。そのおかげで、第一志望から内々定を頂けたので、積極的に活用することをオススメします。

理工学研究科

志望度が高い会社のインターンシップは必ず応募しましょう。早期選考が当たり前になってきていますが、早期選考の資格を得るにはインターンシップへの参加が重要です。早期選考で採用枠が埋まってしまう会社もたくさんあります。早めの行動が大事です。

インターンシップはもちろん、インターンシップ以外でも、自分が行く可能性がある会社周辺を探検しに行くのもいいかもしれません。勤務地を重視する人も、しない人も実際に行ってみると、感覚的に得るもの(モチベーション、もうちょっと都会・田舎の方がいい、休日何ができるのか?など)があると思います。

法学部

会社選びは、他者との競争ではなく、マッチングであると思いました。思うようにいかなかったところは、私には合っていなかったのだと思います。お祈りメールを貰っても怯まずに、どこか自分に合うところを探し続けてください。

法学部

就職活動は勝ち負けではなく自身に合った企業を見つけられるかどうか全てだと思います。業界・業種を絞らず、なんとなく惹かれた企業にエントリーしてみると意外な出会いがあったりするので、視野を広くもつことが大切だと思います。

法学部

自己分析は終わりがないので、自己分析だけに時間を過ぎないこと。自己分析が多少不十分でも1度面接を受けてみて、自身の自己分析でどの部分が足りていないかを再確認することも重要だと思う。

文学部

コロナ禍の影響もあってか、実際にインターン参加者専用の選考ルートなどもあり、就職活動の早期化が進んでいることを強く実感しました。大学の勉強を第一にすることはもちろんだと思いますが、就職活動にも早めに取り組むことで、より多くの選択肢を得られると思いました。

文化情報学部

自己分析はしっかりと行うべきだと感じました。いろんなイベントに足を運んだり、参加したり、ネットで調べたりすることで、思いがけないところに自分に合った企業が見つかることもあるので、最初はいろんな企業を見たほうがいいと思います。

生命医科学部

真摯に選考を受けた方がいいです。相手は経験豊富な大人なので、会社にあわせて嘘をついてもバれます。

生命医科学研究科

志望度が高い企業ではOB・OG訪問をすべきであると思います。業務内容を深く知り、それをうまく面接で伝えることが内定への近道であると感じます。

政策学部

クラブ活動やゼミ活動など目の前のことに全力で取り組んでいたら、面接で話すことがたくさんできるので行きたいところに行けると思います!! 周りに流されず、自分らしく頑張ってください。

心理学部

先輩や大人の力をたくさん借りてください!わからないことはとことん聞いて、ES添削や面接練習にもとことん付き合ってもらってください!

心理学部

就職することを目的とするのではなく、就職先で何を実現したいかということを考えて就職活動をすすめると、自分の納得いく活動になるのではないかと思います。

商学部

1社でもいいから選考のあるインターンシップに参加してほしい。合否は重要でなく、早いうちにESを書き、面接を受け、SPIを勉強したほうが、楽だからである。

学内説明会に積極的に参加してほしい。同志社大学の学生を採用したいと思って参加している企業なので、これを中心に就職活動をするのもあり。ESは、キャリアセンターなど、信頼できる社会人の方にアドバイスをもらうこと。面接ではうまく話そうとするのではなく、面接官の反応を見て、質問に誠実に答えること。

商学部

企業名に拘らず、自分が一番何を大切にしたいのか(仕事内容なのか、勤務地なのか、お給料なのかなど)を明確にして、企業を選ぶといいと思います。

社会学部

迷ったらキャリアセンターの個別相談を利用させてもらうなど、誰かに話すことをお勧めします!

スポーツ健康科学部

出遅れてしまっても諦めず続けることで自己分析も深まり、面接でもうまく話せるようになっていきます。つまみ食い時期が続くと嫌になってしまうと思いますが、諦めないことが一番大切です。

グローバル地域文化学部

就活は自分との勝負なので、周りとは比べるのではなく、自分の価値観を大切に進めるとうまくいくと思います!

グローバル地域文化学部

就職活動は自分を見つめる良い機会だと思います。周囲の状況や溢れる情報とは適切な距離を保ち、自身の価値観に沿った就職活動の形を見つけ出すことができれば、きっとあなたが満足できる結果に辿り着くことができます。とにかく自分を大切に。頑張ってください!

今後開催する
主な支援プログラム

こちらに掲載していないプログラムもあります。詳細は、キャリアセンターホームページ、キャリア支援システム[e-career]、キャリアセンター掲示板を随時確認してください。

キャリアセンター
ホームページ

[e-career]



プログラム名	開催時期
就職ガイダンス	9月、12月
エントリーシートワークショップ	2022年10月~2023年7月(毎月複数回開催)
面接ワークショップ	2022年10月~2023年7月(毎月複数回開催)
グループディスカッションワークショップ	2022年10月~2023年7月(毎月複数回開催)
業界・企業パネルディスカッション	10月~11月
学内企業説明会	2023年2月9日~22日 ※2023年6月以降も開催予定
内定者座談会	10月~12月
公務員・公立学校教員業務説明会	12月

3年次生・大学院
1年次生向け特設ページ

※動画配信を行っていないセミナーもあります。

過去に開催した
セミナー・ガイダンスの
動画配信画面個別相談について
(対面・WEB・電話)

キャリアセンターでは、経験豊かなキャリアアドバイザーやキャリアセンタースタッフが、進路や就職活動に関する悩みや疑問等の相談に対応します。相談方法は、対面・WEB・電話から選択できます。相談を希望の場合は、[e-career]から予約してください。

来年度就職を目指す皆さんへ

納得のいく就職に向けて

来年度の就職を目指す皆さんが気になるのは、数年続くコロナ禍やインフレ、円安等が自分たちの就職活動にどう影響するのかなどだと思います。この点については、悲観しすぎる必要はありません。日本国内では労働人口が減少し続けていることから、採用に熱心な企業が多くあります。また、コロナ禍等で業績が悪化する企業がある一方で、業績を伸ばしている業界・企業もあります。

大切なことは、「早めの準備と幅広い視点を持つ」、「あきらめず粘り強く取り組む」、「自分で考えて決める」の3点です。

キャリアセンターでは、様々な就職支援プログラムや個別相談で皆さんの就職活動をサポートしています。就職活動は情報戦です。キャリアセンターを積極的に活用しましょう。

就職を取り巻く状況と キャリアセンターの支援について

ここからは、本学の現4年次生・大学院2年次生の就職活動の状況と、キャリアセンターが実施する現3年次生・大学院1年次生向けの就職活動支援について説明します。

現4年次生・ 大学院2年次生の状況について

現4年次生・大学院2年次生である2023年4月採用の就職活動は、前年と同様に、企業の採用活動のうち、広報活動が「3年次生の3月」から、選考活動が「4年次生の6月」から開始のスケジュールとなりましたが、この日程によらない企業も多数あり、採用活動は全体として早期化しました。また、これまで新型コロナウイルスの影響のため採用を中止・縮小した業界・企業が、採用を再開・拡大に乗り出す等の変化も一部に見られました。コロナ禍3年目の採用活動となりましたが、多くの企業では引き続き、インターンシップや説明会、面接等でオンラインツールを活用し、採用活動を実施しました。

キャリアセンターでも、このような就職活動の動きに対応するため、昨年3、4月のキャリアガイダンスを皮切りに、新規を含む様々な支援プログラムを開催しました。就職ガイダンスや基本セミナー、個別相談等はWEBでも開催し、実家や遠方にいる学生も参加できるようにしました。

また、業界・企業理解を深めるために、2022年2月から3月に、延べ約600社が参加するWEBの学内企業説明会を開催しました。説明会の内容はオンデマンドでも配信し、説明会には約200名のOB・OGが参加、後輩へのアドバイス等をいただきました。

就職活動中の学生を支援するため、今年の6月以降学内で選考会を実施するWEB企業採用選考会を定期的に開催し、採用継続中の企業の求

人情報を積極的に提供するなど支援を行っています。

現3年次生・大学院1年次生向けの 就職支援について

就職活動の早期化・長期化、採用に直結したインターンシップが増えている現状に対応するため、新3年次生対象のガイダンスを3月下旬に実施しました。学業の優先を前提としつつ、就職活動への早期からの準備を促し、インターンシップ参加に向けてのエントリーシート・面接対策等のセミナーを実施、学生の積極的な挑戦を後押ししました。

また、学生の活動開始時期が多様化していることから、1年間で3つの時期に分け、各時期に、ガイダンス、セミナー、ワークショップ等を開催、学生が就職活動をいつから始めても対応できるように、必要な知識やスキルが身に付く体系的なパッケージを用意しています。各プログラムはオンラインで開催し、キャリアセンターホームページ上でオンデマンド配信も行っているため、いつでも視聴できるようになっています。

また、就職活動の早期化に伴い、インターンシップの重要性が高まっているため、有力企業に協力いただき、夏期休暇中に、同志社大学の学生の参加枠を設けた同志社生限定インターンシップも開催しました。

コロナ禍により、就職を取り巻く環境が変化していますが、就職環境の良し悪しにかかわらず、皆さんが企業にアピールすべきことは、主に、根拠に裏付けられた皆さんの強みと、企業への熱意の2点です。また、皆さんが知っている大手企業や有名企業の多くは、就職環境に関係なく、常に「厳選採用」であることを覚えておいてください。大手企業や有名企業には、全国から何千、何万人もの学生からのエントリーがありますので、全員が面接選考までたどり着くことはできません。まずは、エントリーシートで自身をアピールすることが重要です。キャリアセンターで実施するエントリーシートセミナーに参加し、まずは自分らしいエントリーシートの書き方を身に付けてください。

来年2月には、約400社の企業を招聘し、企業理解を深めるWEBの学内企業説明会を開催予定です。学外で開催される合同説明会と異なり、学内企業説明会は、同志社大学生だけのために多くの企業が参加いただける点が大きな魅力です。現時点で興味がある業界・企業だけではなく、幅広い業界を見て比較し、職業選択の幅をできるだけ広げてください。

特に、皆さんが知っている企業は、一般消費者向けのビジネスを展開するB to Cの企業が多いのですが、日本には、企業向けのビジネスを展開するB to Bの企業が数多く存在します。B to Bの企業の中には、世界でトップシェアを誇るような企業が数多くあります。知らない企業でも、ぜひ積極的に情報収集をしてください。

キャリアセンターでは、皆さんからの個別の相談にも対応しています。相談というと身構えてしまうか

もしれませんが、就職活動について話を聞いてほしい、考えを整理したいので誰かと話したいといった際にも気軽に利用してください。多くの先輩たちも、就職活動の進め方や、エントリーシートの書き方等様々な相談をしています。

就職活動では、一見すると明確な数値や基準のない中で採用・不採用が決まります。自信をもって提出したエントリーシートや履歴書が通過しない時や、手ごたえがあった面接が不合格だった時は、自分自身を否定されたような気持ちになるかもしれません。落ち込んだ時は、一人で悩まずにキャリアセンターを大いに頼ってください。

企業の求める人材

経団連が実施したアンケートによると、企業が新卒採用時に期待する資質の1位は、「主体性」です。2位以下には、「チームワーク・リーダーシップ・協調性」、「実行力」が続きます。企業が新卒の学生に求める力は、「自ら主体的に行動し、周囲を巻き込みながら、実行する力」と集約できるでしょう。

コロナ禍で定着したオンラインによるコミュニケーションは、直接対面で話すのとは異なる難しさがあります。これまで以上に相手の意見を傾聴し、そのうえで自分の意見を伝えることが重要です。今年も多くの企業でWEB面接が実施されましたが、通信が途中で途切れてしまう、音声が届きづらい、カメラが機能しない等、様々な問題が起きました。面接の緊張感が加わって、パニックになった学生もいました。トラブルに柔軟に対応できるよう、事前にPC操作に習熟しておく等の準備をしてください。

また、コロナ禍でリモートワークが増え、職場で仕事をしている時よりも仕事の全体像が見えにくい状態にあります。指示を待つだけの受動的な姿勢では、業務に支障が生じることがあります。これからの社会人は、これまで以上に主体的に課題を発見して、対策を考え、解決に向け挑戦し、業務を遂行する力が求められます。

最後に

採用選考の過程では、学生時代に力を注いだエピソードを通じて、皆さんがどのような状況でどのように考え、どのように行動したのかが問われます。しかし、コロナ禍の影響で、サークル活動、ボランティアやアルバイトが大きく制限されるなか、何をどのように伝えるのが難しくなっています。

大切なのは、何らかの目標を達成したという結果ではありません。目標を達成するまでにどのような努力をしたのかというプロセスを具体的に明確に伝えることが重要です。プロセスの中に、皆さんの強み、人間性、価値観、能力等が表れるからです。

「早めの準備と幅広い視点を持つ」、「あきらめず粘り強く取り組む」、「自分で考えて決める」の3点を意識しながら、自分を信じて前向きに就職活動に取り組んでください。

同志社校友会

Doshisha Alumni Association

同志社校友会
会長 松岡 敬



INFORMATION

2

2022 November

同志社校友会 Doshisha Alumni Associationは、同志社設立10年後の1885年に「アルムニ会」として発足したのが、始まりです。その目的は、卒業生の親睦と大学との連携を通じて学生をサポートすることです。現在、約36万人の会員となり、国内はもとより、各国にも支部があります。



TOPIC

2020年春から新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、大学では20年3月の卒業式、4月の入学式を中止し、20年春学期は感染拡大防止のため、学生のキャンパスの立ち入りができず、希望を胸に入学した学生は、思い描いた学生生活が送れなくなりました。また、アルバイトの機会を失うなど生活面の困窮という事態になり、校友会としては、それらの学生を救済すべく、同志社大学と連携して20年5月から6月にかけて商店街やスーパーで利用できる食生活応援クーポンを配布したところ、延べ7,000名以上の下宿生が利用し、一人暮らしの食生活サポートを行うことができました。

その後も、20年12月に「同志社校友会ランチプロジェクト」を立ち上げ、21年7月、12月、22年7月と継続的に食生活の支援を行いました。学内の食堂において、200円の補助をすることで、学生の経済的な負担を軽減するとともに、安定した食生活が送れるようにしています。

22年7月の実績としては、累積で約13万人、2,600万円の支援を行いました。ランチプロジェクトを利用した学生へのアンケートでは、感謝の声に加えて、「私も将来就職して、このように後輩たちをぜひ支援したいと強く感じました」という声も寄せられ、支援の有益性を全国の校友と共有させていただきました。初期の頃の経済困窮度は軽減しているものの、支援の必要性は変わりなく続いていることから、今後も、様々な学生への支援を継続し、充実した学生生活を送ってもらえるよう対応してまいります。



学生アンケート▶

▶同志社校友会ランチプロジェクト

同志社校友会 活動の概要

① 卒業生とつながる

2022年8月現在、国内に48の支部、海外に36の支部が存在し、本部と連携しながら活動を行っています。「地元へ転職をしたい」、「転勤になって慣れない土地で生活するのが不安」、「海外での勤務は家族も心配している」など、社会に出てから課題を抱える卒業生に対して、現地の校友がサポートをしています。

ホームページに連絡先を掲載しています。

<https://www.doshisha-alumni.gr.jp/shibu/shibu01.html>



② 大学とつながる

同志社大学と連携した学生へのサポート活動を行っています。同志社大学が掲げる「VISION 2025」の推進を目的とした「リーダー育成事業支援」、「グローバル人材育成」への支援やその財源となる「同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金」の活動支援。同志社ローム記念館プロジェクト等の「京田辺キャンパス活性化支援」。同志社フェアなどのイベントを通じた大学のプレゼンス向上のための「同志社ゆかりの地連携支援」など。



③ 学生を支える

「同志社校友会奨学金」、「同志社スポーツ奨学金」、海外留学生支援として「グローバル人材育成奨学金」など各種給付型の奨学金制度を通じて教育と学生生活の充実がはかれるサポートを行っています。

同志社校友会本部事務局

TEL : 075-251-4393

E-mail : info00@doshisha-alumni.org

クリスマス・イルミネーション点灯式



2021年の様子

アドベントを前に各地でクリスマス・イルミネーションが灯り始めるころ、同志社大学でも点灯式を催しています。

京都の冬の風物詩として広く親しまれている今出川校地の点灯式では、西門に入って北側に広がる、彰栄館・同志社礼拝堂・良心館に囲まれたサンクタスコートのヒマラヤスギに

約16,000個のLED電球が灯ります。

京田辺校地では、3代目となる2019年に植えられたヒマラヤスギに約6,300個のLED電球が灯ります。正門を入ってすぐの同志社ローム記念館前にあるため学外からも望むことができ、キャンパスのシンボルとなっています。

今出川校地

11月21日(月) 17:15~(予定)
西門北側サンクタスコート ヒマラヤスギ周辺

京田辺校地

11月22日(火) 16:45~(予定)
同志社ローム記念館前

※なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、変更になる場合があります。ご了承ください。

新たなICT学習環境へ

本学では、With・Afterコロナを見据え、情報対応能力を駆使して、グローバルに活躍し、社会に貢献できる人物を輩出できるよう、両校地のICT(情報通信技術)学習環境を一新しました。

■ 主な変更点

情報教室PC・PCコーナー

→ よりハイスペックなPCを採用

貸出ノートPC

→ カメラ/マイク搭載PCの採用(ネット配信授業対応)

無線LAN

→ 利用可能範囲拡大、最新規格(Wi-Fi6、WPA3)への対応、多人数同時接続時の安定性強化

利用者認証

→ 従来のユーザID・パスワードに加え、イメージングマトリクスやスマートフォンへのプッシュ通知を併用した、より強固な利用者認証(多要素認証(Multi-Factor Authentication))を導入

動画収録配信システム

→ 教職員が授業等のコンテンツの収録・編集・配信をシームレス、かつ、容易に行えるシステムを導入

同志社大学ポータル・同志社大学公式アプリ(新規)

→ 学生や教職員へのお知らせを集約して通知、スマートフォンにプッシュ通知する機能あり

利用に関するお問い合わせは
ITサポートオフィスまで。



今出川情報教室



京田辺 PC コーナー



多要素認証

利用方法を動画で
ご覧いただけます



同志社大学ポータル



ぜひ、アプリをスマートフォンに
ダウンロードしてご利用ください。

App Store

Google Play





「ゼミで学ぶ 魅力を語る」

幅広い領域の専攻から数多くのゼミがある本学。

それぞれ、どんなことを学んでいるのか。

ゼミ教員が、個性豊かなゼミの魅力を語ります。

情報伝送の理論限界を追求し、 問題解決能力を身に付ける



理工学部
教授

てい しゅん
程 俊 ゼミ

Jun Cheng

情報伝送技術は、携帯電話システムやインターネットに代表されるように、人と人をつなぐのに欠かせない技術であり、情報化社会を進展させる原動力となっています。近年は、人と人だけでなく、モノとモノをつなぐ技術、いわゆるモノのインターネット(IoT)を実現するため、情報伝送技術の更なる革新が求められています。情報伝送技術の理論基礎として、シャノンの情報理論があります。情報の伝送問題を「数理モデル」に置き換え、ある評価基準のもとで情報伝送の「理論的限界」を導出します。次に理論限界を達成する「具体的な方法」を考案し、その有効性を理論解析や計算機シミュレーションにより明らかにします。このシャノンの考え方を、エベレスト登山に例えると、「理論限界」は世界最高峰エベレストの山頂位置であり、「具体的な方法」は山頂に向かう登山道です。山頂位置を明確にした上で、山頂に到達する様々な登山道を探します。我々情報理工学研究室では、シャノンの情報理論に基づき、IoTの実現に向けて、革新的な情報伝送技術の研究を進めています。流行の技術に惑わされるこ

となく、テキストや論文の輪講を通して情報伝送の理論基礎をしっかりと身に付けます。その上で、IoTに必要な最先端の情報伝送問題に取り組んでいきます。各問題をモデル化し、その問題の本質をみきわめ、理論限界を数学的に証明します。さらに理論限界に近づく方法を考案し、その成果を世界中の研究者たちと競争します。また、理論限界を達成する方法を現実には作れないので、計算量等を考慮し実用可能な方法を作っていきます。当研究室では、このように最先端の研究を進めながら、問題を自ら発見し、その問題の本質をみきわめ、論理的思考により解決する能力を身に付ける研究者・技術者の育成を目指しています。

ゼミ生の声(中西 日向子さん)

私は重ね合わせ符号を新たに提案することで、短いメッセージを効率的に伝送するIoTにおける難問を解くことを目指しています。理論限界に近づくことにより提案符号の性能を確かめています。教授や先輩の充実したサポート体制で、問題解決方法を自ら提案できるようになり、技術者になるためのスキルを学ぶことができる研究室だと感じています。

非行・犯罪行動の理解と 回復の支援を切り口に 他人を知り、自分を知る



心理学部
准教授

もうり まゆみ
毛利 真弓 ゼミ

Mayumi Mori

私のゼミでは、非行・犯罪行動をした人の理解と支援を中心に、他者への暴力や依存症行動、被害と加害の関係を考えることをテーマにしています。3年次秋学期に始まるプレ演習では、非行・犯罪に関する数冊の本を読んで議論したり、時に当事者をお招きして犯罪行動について知ったりする機会を作り、感じたことや考えたことをゼミ生同士で分かち合います。4年次からは、ゼミ生が興味を持った関連のテーマについてそれぞれ卒業論文で研究していきます。加害や被害を対岸で起きている「物語」ではなく身近なものとして捉え、自らがどう他者と関わるのか、世の中で起きる暴力とどう向き合うのかについて考える時間を重視しています。

ゼミ生の声(宇城 のぞみさん)

ゼミでは課題図書についてのディスカッションやチーム単位での卒業研究の計画を行います。学習の中で犯罪や非行の事例、またその当事者の方々に起こることについて深く考えているとつらい気持ちになることもあります。一人ではそこで立ち止まってしまいがちですが、ゼミ生同士で率直な意見を交流する時間があることで、一人で考えるよりも多角的な視点で犯罪や非行を捉えることができるようになります。また、そこから得られた疑問について、これまで学んだ心理学の知識を用いて研究を計画し探求できることがとても楽しいです。

learning objects of Seminars



政策学部
教授

かわぐち あきら
川口 章 ゼミ

Akira Kawaguchi

「ジェンダー」と 「人的資源管理」

ゼミでは、「ジェンダー」と「人的資源管理」について研究しています。「ジェンダー」とは性別のことで、性による役割分担や差別、また、女性、男性という枠に入らない性的少数者(LGBTQ)が抱える問題などを扱います。「人的資源管理」とは、企業などの組織における従業員に対する管理のことで、どのような制度をつくと働きやすい組織になるかを考えます。

研究に必要な能力は、論理的思考と独創的発想と表現力です。これらの能力を身に付けるために、2年次では、ディベートや3分間スピーチを行うとともに、統計解析の基礎を学習します。3年次では、3人から5人のグループに分かれて、それぞれが関心のあるテーマで研究を行い、研究発表大会やビジネスコンテストに出場します。

自分が置かれている環境に対し、いかに自分を適応させるかに腐心する学生が多いようですが、ゼミ生には理想の環境を創ってほしいという積極性を持ってほしいと思います。

ゼミ生の声(阿久津千優さん)

海外に住んでいたことから、日本のジェンダー差別について疑問を感じており、ジェンダーと人的資源管理を学ぶことのできる川口ゼミに興味を持ちました。最近ではニュースでもよく取り上げられるようになったテーマではありますが、統計解析などによる調査をすることで、依然として日本には課題があることを学びました。

ゼミ生による
グループ研究の成果



グローバル地域文化学部
准教授

おう りゅうらん
王 柳蘭 ゼミ

Liulan Wang-Kanda

フィールドでの対話と 気づきを出発点にして、 課題をわかちあひながら、 問いに向き合う

ゼミ運営は試行錯誤の連続です。私は、人が移動しながらどのようなコミュニケーションをつくりあげていくのか、宗教、民族間の関係性や国境を超えたネットワークについて取り組んできました。タイとミャンマーの国境、その周辺の中国や台湾などに足を運んで、人間関係を紡いでいく、文化人類学的手法を活用してきました。二歩足を踏み出して、人と人との関わりから地域や文化をみていく視座がもたらすものは、論文を書くといった成果を大きく上回り、人生に光を与えてくれます。足元の日本にもフィールドとしての学びの場を広げ、学生と課題を見つけ出し、現場の人々とわかちあひつつ、対話を重ねて発信する方法はないのだろうか。そんな思いはコロナ禍でますます強まりました。情報の収集や検索で

はなく、顔の見える関係性づくりのなかで「問い-問われる」学術的な営みを通して、ゼミ生個々人の気づきにもとづいた知的好奇心の広がりを目指しています。

ゼミ生の声(高野夏子さん)

私たちのゼミでは、ゼミ生がそれぞれ自分のテーマについて発表し、立てた問いに対して議論を深めています。他の学生や先生の意見を聞くことで、自身の研究テーマについて新たな発見ができることが良い点であると思います。また、有志でフィールドワークとして鶴橋のコリアタウンを歩きながら現地の人々の話を聞き、在日コリアンの歴史について学ぶことができたのも貴重な経験でした。従来の人々とのつながりが希薄になる一方、SNSなどですぐに世界とつながることができ、人との関係が多様化している現代において、文化人類学で重要な「他者の視点に立つて多角的に物事を捉えること」を大事にしていきたいと考えています。



— 2022年度 —
卒業式・学位授与式 (学部・大学院)

日時	学部・研究科	場所
3月20日 (月)	10:00 法学部・法学研究科	栄光館
	12:30 文学部・文学研究科	
	15:00 神学部・神学研究科、社会学部・社会学研究科、グローバル地域文化学部、国際教育インスティテュート	
3月21日 (火・祝)	10:00 経済学部・経済学研究科	栄光館
	12:30 政策学部・総合政策科学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、司法研究科、ビジネス研究科	
	15:00 商学部・商学研究科	
3月22日 (水)	10:00 文化情報学部・文化情報学研究科、生命医科学部・生命医科学研究科、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科、心理学部・心理学研究科、グローバル・コミュニケーション学部、脳科学研究科	京田辺校地 デバイス 記念館
	13:00 理工学部・理工学研究科	

— 2023年度 —
入学式 (学部・大学院)

日時	学部・研究科	場所
4月1日 (土)	9:30 神学部・神学研究科、政策学部・総合政策科学研究科、理工学部・理工学研究科、グローバル地域文化学部、脳科学研究科	京田辺校地 デバイス 記念館
	11:30 文学部・文学研究科、社会学部・社会学研究科、文化情報学部・文化情報学研究科、心理学部・心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科	
13:30 商学部・商学研究科、生命医科学部・生命医科学研究科、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科、グローバル・コミュニケーション学部、司法研究科、ビジネス研究科		
15:30 法学部・法学研究科、経済学部・経済学研究科、国際教育インスティテュート		

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、上記の内容から変更する可能性があります。最新情報は大学HPをご確認ください。

ヘムタンパク質の科学

北岸宏亮 他著
エヌ・ティー・エス 27,500円

東アジアにおける スポーツとメディア

水出幸輝 他編著
創文企画 2,530円

私たちが声を上げるとき

和泉真澄 三牧聖子 他著
集英社 1,100円

国際私法 第3版

林貴美 他著 有斐閣 3,300円

LEGAL QUEST 憲法 II

人権 第3版
松本哲治 他著 有斐閣 3,300円

LEGAL QUEST 憲法 I

総論・統治 第3版
松本哲治 他著 有斐閣 3,080円

日本ボランティア・NPO・ 市民活動年表 増補改訂版

岡野八代 菅野優香 他著
明石書店 16,500円

ソーシャルワークの 理論と方法 II

空閑浩人 他編著 永田祐 他著
ミネルヴァ書房 3,080円

ベンヤミンと実存思想

森田園 他著
実存思想協会 2,200円

鎌倉幕府と室町幕府

山田徹 他著
光文社 946円

ポスト・グローバル化と 政治のゆくえ

野田遊 他著
ナカニシヤ出版 3,630円

ロシア文学からの旅

中野幸男 他著
ミネルヴァ書房 3,080円

イギリス湖水地方 アンブルサイドの女神たち

白井雅美 著 英宝社 3,740円

Language teacher motivation, autonomy and development in East Asia

中田賀之 他編著 Springer

主体的に学ぶ発達と 教育の心理学

山口洋介 他著
ナカニシヤ出版 2,530円

榎太一が聞く科学の伝え方

榎太一 著 東京化学同人 1,320円

E・H・カーを読む

三牧聖子 他編著
ナカニシヤ出版 3,080円

「持たない時代」の マーケティング

高橋広行 編 高橋広行 他著
同文館出版 2,420円

判例プラクティス民法 I 総則・物権 第2版

上田誠一郎 大中有信 梶山玉香
佐々木典子 中西正 野々村和喜 他著
信山社出版 4,180円

樹脂/フィラー複合材料の 界面制御と評価

大窪和也 小武内清貴 他著
技術情報協会 88,000円

自動車マルチマテリアルに 向けた樹脂複合材料の開発

大窪和也 小武内清貴 他著
技術情報協会 88,000円

『台湾愛国婦人』研究論集

田中励儀 他著
広島大学出版会 3,740円

昭和五〇年代論

水出幸輝 他著 みずき書林 8,800円

居場所なき革命

吉田徹 著 みずき書房 4,180円

日本人の承認欲求

太田肇 著 新潮社 836円

生体組織の超音波計測

松川真美 他編著 コロナ社 3,850円

中世神道入門

GAETAN RAPPO 他著
勉誠出版 4,180円

唐宋八大家研究

副島一郎 他著 中国書店 8,800円

ようこそ、心理学部へ

中谷内一也 竹原卓真 石川信一
藤村友美 毛利真弓 畑敏道 大屋藍子
青山謙二郎 著 筑摩書房 902円

「責任ある・使命ある大学」 の将来像を語ろう!

山田礼子 他著
広島大学高等教育研究開発センター

高等教育研究の課題と 高等教育研究への期待

山田礼子 他著
広島大学高等教育研究開発センター

Ideas and Economy in Japan

西岡幹雄 著 有斐閣 6,160円

英国若者文学論

川島健 著 小鳥遊書房 3,190円

デュイイの思想形成と 経験の成長過程

新茂之 他著 北樹出版 4,070円

本学教員の 執筆図書紹介

(価格は税込)

労働六法 2022

土田道夫 他著 旬報社 6,050円

会計学の基本 第3版

志賀理 他著 森山書店 2,640円

AI(人工知能)のきほん

土屋誠司 著 創元社 2,750円

国語語彙史の研究 四十一

藤井俊博 他著 和泉書院 9,900円

政治家のレトリック

OFER FELDMAN 他著
勁草書房 3,520円

「ヘイト」に抗するアメリカ史

和泉真澄 南川文里 三牧聖子 他著
彩流社 3,080円

国際ソーシャルワークを知る

立木茂雄 MARTHA MENSENDIEK 他著
中央法規出版 2,970円

同志社人 訪問



当時最年少の23歳でサッカーの1級審判員の資格を取得して以来、国際舞台やJリーグの試合で笛を吹き続けてきた家本政明さんは、昨年12月に二線を退き、新たな人生の二歩を踏み出しました。困難を乗り越える際に心の支えになったご自身の考え方や今後の活動について、お聞きしました。

—元日本サッカー協会プロフェッショナルレフェリー—

家本

Masaaki Temoto

政明さんに

ダブルスクールにアルバイト、遊ぶひまもなかった学生時代

家本 きょうは何の話から始めますか？恋愛の話からとか？(笑)

岩岸 サッカーの話をお願いします(笑)。家本さんも僕と同じように、ずっとプロの選手を目指してプレーし続けてこられたと思うのですが、何がきっかけでレフェリーになられたのでしょうか？

家本 サッカーは小学生の頃からプレーして

いたのですが、高校生になってから内臓の病気の影響で、吐血するようになりました。同志社大学から指定校推薦を受けることができ、進学したものの、すぐにそれまで経験したことのない量の吐血があり、ドクターストップがかかったのです。プレーはできなくても、何かサッカーに関わっていきたくてという気持ちはあって、数あるオプションの中から、最初に興味を抱いたのがレフェリーでした。高校時代に、練習試合で笛を吹いたことがあって、おもしろいなと思った経験があり、それでやってみ

家本 政明さん

—1996年 経済学部 卒業—

聞く

岩岸 宗志さん

商学部商学科
4年次生
体育会サッカー部所属





「変化で得るものが多い、
恐れずチャレンジを」

ようと思いました。

岩岸 同志社大学在学中に1級審判員の候補になられ、1996年に当時史上最年少で1級審判員の資格を取得されました。どのような学生生活を送られたのですか。

家本 将来のことを考えて、カイロプラクティックの資格を取るために、3、4年次生の時にダブルスクールで専門学校に通いました。ですから学生時代は、同志社での学業とレフェリーとしての活動、専門学校、学費を稼ぐためのアルバイトの四つを掛け持ちし、結構忙しくて、遊ぶひまはなかったですね。遊ぶのは、いつでもできると思っていたので、それは苦ではなかったです。

人間性を中心に

複数の軸を持つことが大事

岩岸 1級審判員の資格取得にしろ、ダブルスクールにしろ、新しいことにチャレンジするのに、躊躇ちゆうしゆはなかったのですか。

家本 変化に対して、どのような価値観を持っているかによって、受け止め方が違ってくると思います。私は変化に対して、すごくポジティブな考えを持っていて、常に変わり続けていたいと思っています。歴史上、何かを成し遂げた人の多くは、変化を恐れなかった人です。リスクはあるにしろ、得るものも多いと思うので、躊躇することはなかったですね。

岩岸 僕は子どもの頃からずっとプロのサッカー選手を目指していて、今もその目標に向かっている最中です。プロになるためには、全体のレベルを上げた方がいいのか、特技に磨きをかけた方がいいのか、迷っているのですが、何かアドバイスをいただけますか？

家本 特技に磨きをかけることも大事ですが、何かひとつ、「これだけ」という考え方は危ないと思っています。プロで成功している選手は、自分の柱を複数持っていて、いつも何か勉強しているし、目立たないながらも常にチャレンジしています。岩岸さんは、優秀なサッカー選手の条件は何だと思いますか？

岩岸 サッカーに特化していて、技術に優れている点です。それと、人間性です。

家本 そうですよ。では、岩岸さんは、人間性について、努力したことはありませんか？

岩岸 小中高大の全部のカテゴリーで主将を務めてきたので、努力ではないかもしれませんが、自分のことだけでなく、意識的に周りのことを考えるようにはしています。

家本 岩岸さんが言う通り、要は、キャプテンシーとかリーダーシップ、つまり人間性が大事なことですよ。サッカーのピッチそのものが社会の縮図で、社会性の生き物である人間がすることなので、そうした人間性とか、コミュニケーション能力の高さが必ず問われてきます。そうした力を備えている人が優秀な選手で、そういう人は概してサッカーから離れても影響力を持つことができます。人間性を中心に複数の軸を持つことがとても大事です。

見たことのない美しい風景、 「感謝」の気持ちしかなかった 引退セレモニー

岩岸 家本さんはかつて「日本一嫌われたレフェリー」と呼ばれたこともあると聞きます。逆風の中、何を軸にしてそれに立ち向かわれたのでしょうか。

家本 批判の中には、ただ私に攻撃を加えただけの、聞くに値しない声もあります。一方で、自分にとってダイヤの原石のような大事な意見もあります。その見極めを大事にしました。岩岸さんは、自分のことは好きですか？

岩岸 はい、好きです。

家本 では、自分のことを否定したいと思いませんか？

岩岸 思いません。

家本 そうですよ。でも、自分で非を認めて、問題にきちんと向き合わないと、自分を変えていくことはできません。間違っている自分がいたとしたら、謙虚に正しく自分を否定し





て、変えていくことが大事だと思い、それを実践しました。一人では大変な作業ですが、師匠や妻を始めとした周囲の人に支えてもらえたのは、とてもありがたく、感謝しています。

岩岸 昨年12月4日、横浜F・マリノス対川崎フロンターレ戦で最後の主審を務められ、第一線を退かれました。試合後の引退セレモニーはレフェリーとしては異例で、僕も動画配信で見て、とても感動したのですが、あの時はどのようなお気持ちでしたか？



今回の同志社人

Profile 家本 政明さん

1973年広島県福山市生まれ。福山葦陽高校時代はDFとして活躍し、広島県選抜にも選出。同志社大学経済学部入学後に内臓の病気が悪化し、サッカー選手を断念。一転して審判員を目指し、96年に卒業後、1級審判員資格を全国最年少で取得。2002年からJ2、04年からJ1で主審を担当。05年からプロ審判となり、国際審判にも選出。10年に日本人で初めて英国ウェンブリー・スタジアムで試合を担当。11年に英国初の外国籍審判としてFAカップの試合を担当。21年に勇退。国際試合100試合以上、Jリーグは歴代最多516試合の主審を担当。現在はJリーグフットボール企画戦略部マネージャーとして活動中。

家本 10万人のサポーターからブライイングを浴びたことは何度かあるのですが(笑)、あの時は、感謝の気持ちしかなかったですね。あのような美しい風景をいままで見たことがなく、サッカー、最高だなと思いました。

サッカー界の発展のため、非日常的な空間の創出に携わっていききたい

岩岸 今後、どのようなことに挑戦していくのか、お聞かせください。

家本 Jリーグの二員として、サッカー界の発展のため、よりたくさんの方々の笑顔、人々とのつながり、非日常的な空間の創出に携わっていききたいですね。それとは別に、レフェリーとしての知見を活かし、後進の育成に加え、とかく誤解されがちなレフェリーの役割とかサッカーのルールなどについての情報発信を個人として行っていく予定です。

岩岸 僕自身、1年次の時はけがでプレーができず、2年次になってからはコロナ禍で、思うように練習ができなくて、辛い経験もしたのですが、同じように困難に直面する学生に向けて、ご自身の経験に即してアドバイスをお願いします。

家本 まずは、「既成概念にとらわれるな」とアドバイスしたいです。世界に出ると、日本の常識がそうでないという例が山ほどあります。それと、「視野を広く、視座を高く」ということですね。「視野を広く」とは、いろいろなものを見て、経験することで、選択肢を広げることです。「視座を高く」とは、自分の立場より、上の立場から物事を考えることです。あと大事なのは世界共通言語の英語の習得です。この三つがあれば、世界中、どこでも自分が好きなところで生きていくことができます。

岩岸 家本さんのお話を聞いて、僕もサッカー界の発展に関わっていききたいと強く思いました。卒業前の大事な時期に貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。

取材を終えて

家本さんへの取材の中で、特に心に残っている言葉が2つあります。1つ目は「視野を広く持ち、視座を高めること」です。これは学生に限らず、人として物事を意欲的に知ろうとし、また1つの立場だけでなく多方面からその物事に対して考えることが重要であるということです。2つ目は自らを素直に否定することです。これは家本さんが挫折を乗り越えたときにも大事にしていた軸であり、自分自身と素直に向き合い、人として成長する上で非常に重要なことだと感じさせられました。今回、家本さんから貴重な話を伺うことができ、学生の間に取り組むべきことや取り組み姿勢を見直す非常に良い機会となりました。この素晴らしい経験を今後の生活、人生に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

Interviewer 岩岸 宗志さん



商学部商学科
4年次生
体育会サッカー一部所属

星稜高校出身。体育会サッカー一部主将としてチームをまとめ、41年ぶりに天皇杯1回戦突破に導く。ポジションはFW。卒業後はプロサッカー選手になることを目標に、持ち味の得点力とスピードに磨きをかけるべく、日々の練習に取り組む。

My Purpose 挑戦する人

ひなた
北村 陽さん
文学部文化史学科
4年次生

2022年5月にブラジルで開催された、ろう者のオリンピック「デフリンピック」空手競技の男子「形」にて、銅メダルを獲得。同志社大学には、歴史学を学ぶため3年次に転入学してきた。



聞こえなくても
空手はできる

インタビュー動画も
チェック



注目される

東京大会で活躍し デフ空手を広めたい

空手の「形」は独特の緊張感が漂う。ピリツとした空気を切り裂く気合の雄叫び。会場全体の意識が一気に演武者に引き込まれる。東京2020オリンピック競技大会で注目を集めた空手だが、デフリンピック*においても、空手が正式種目に採用されていることをご存じだろうか。

今夏のデフリンピックで、空手競技の男子「形」日本代表の北村陽さんが銅メダルを獲得した。「聞こえなくても空手はできる。その事実を多くの人に知ってもらえたら」とデフ空手への関心や認知が広がることへの期待を口にしている。

仮面ライダーの強さに憧れ、空手を始めたのは6歳の頃。野球や卓球に比べ、コンタクトを伴う空手を習うろう者は少なかったが、学業と両立させながら競技を続け、晴れ舞台で見事

メダルに輝いた。

デフリンピック出場は北村さんの念願だった。前回トルコで開催された2017年の大会では、惜しくも代表選考に漏れた。次こそはと意気込んでいた矢先、コロナ禍という暗雲が覆い21年の大会は約1年延期になった。「日本代表になれるかもしれないと言われて4〜5年。代表に決まった時は安堵の気持ちでいっぱいでした」と選出時の心境を吐露する。

今年9月、3年後に迫る25年の夏季大会開催地が東京に決まった。東京2020パラリンピック競技大会が、障がい者やパラスポーツへの関心を高め、理解を深めたことは記憶に新しい。東京開催は、デフ空手を含む国内デフスポーツの発展・飛躍につながるきっかけとなるだろう。「空手をせっかく始めても、コミュニケーションの問題でやめてしまう人は少なくありません。『全日本ろう者空手道連盟』が発足したのは約6年前ですし、ろう者が空手を楽しめる環境づくりは緒に就

いたばかり。全国のろう者に空手の魅力を伝え、仲間の輪を広げていきたい。そのためにも注目度の高まる東京大会では絶対に結果を残したいですね」

目標は金メダル。見つめる先にあるのは、自身の活躍でデフ空手を広めたいという思いだ。夢の実現に向けて、北村さんは心技体を磨き続ける。

(取材日: 2022年9月上旬)

*目の不自由なという意味である「デフ(Deaf)」を冠したデフリンピックは、身体障がい者によるパラリンピックとは異なり、ろう者のみが出場する大会。国際ろう者スポーツ委員会が運営し、夏季大会と冬季大会がそれぞれ4年に1度開かれている。



メダルを手にした2022年のデフリンピック空手競技のメダリストたち。一番右が北村さん